

もの言う牧師のエッセー 第333話 ④「下町ボブスレー」

平昌五輪

東京都大田区の町工場の経営者らが製作した「下町ボブスレー」は、残念ながら前回のソチ五輪に続いて平昌でも出場が叶わなかった。契約を結んだジャマイカチームは、最終的にラトビアのBTC社製ソリを使った。職人技では決して世界で引けを取らないはずの“下町ソリ”。それはジャマイカ選手も認めていた。しかし、ソリを製作する職人技や、マーケティング云々ではない、乗り手の立場になって製作する共感が今一步だったようだ。

そもそも、下町プロジェクトは「大田区のものづくり技術を五輪でアピールし、世界から仕事を獲得する」狙いで始まった。一方、選手にとって重要なのは、命を懸けて100分の1秒でも速く走り結果を出すことだ。実はソチ五輪の3カ月前、日本チームは下町ソリにフレームの色を赤ではなく黒にしてほしい」と改善を要望したことがあった。他のチームがボディーの中を横からのぞいて構造をチェックし模倣する可能性があるからで、目立たないようにボディーと同じ黒にしてほしいと何度か頼んだが、「赤は情熱を表現した色。色はソリの性能に関係ないので、変える必要はない」と取り合ってもらえず、「下町の皆さんは技術に自信がある分、使う側の意見を積極的に聞こうという姿勢がなかった」と言う人も。

さらには平昌五輪の4カ月前、ジャマイカチームに引き渡したソリが規則違反を指摘された。ソリには形状や重さなどの細かな国際規則があり、それらの基準を満たさなければ使えない。五輪出場のかかった試合を目前に控え、ジャマイカ側からは「このままでは五輪を棒に振る」と厳しい声が上がった。下町側は「契約ではソリを引き渡した後の責任はジャマイカ側が取るはず」と反論するが、後で修正するより初めからリスクや対処法について徹底的に詰めておくべきだったわけで、結局ジャマイカはBTC社製を選んだ。日本の元選手は、「BTCは小さな工房だがボブスレーの経験者が関わり、操縦しやすく調整もしやすい。経験者が作っているのだから乗り手の気持ちがかかっている」と言う。イエスは言う。

「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。」

ルカの福音書6章31節：共同訳。

これは「黄金律:Golden Rule」と呼ばれ、儒教や仏教、ヒンズー教などが言う「人にされたら嫌なことは、人にもするな」より遥かに高次元の取り組みである。手間がかかり、周り道を行くことがあっても、相手に寄り添い、とことん話し合う。何のことはない、イエスはいつも私たちにそうして下さっている。だからこの逸話は特にキリスト者には挑戦的だ。独りよがりの善ではダメなのだ。

2018-4-27

